

営業強化と人材育成推進
8月に自動包装機導入

高木 正好社長

ジャパンビュー
ティ高木社長

8月に自動包装機導入

ジャパンビューティプロダクツ(東京都中央区銀座)の高木正好社長は7月28日、本社取材に応じ、同社の近況と最新の取り組みについ

て大要次のように述べた。

一、現在の受注状況は前年比では横ばい。資材や原料の価格上昇に対しては、まず自社での吸収に努めており、やむを得ない分についてはのみ取引先に価格改定への理解を求めている。こうした対応を進めているものの、コストの増加を吸収しきれず、27年3月期の営業利益は前期比で減少を見込む。

一、今後の成長戦略の一環として、自己成長をテーマに掲げた人材育成およびそれに伴う研修が今年5月よりスタートした。「エンゲージメントの向上」と銘打った同研修では、自己理解と他者理解を深めることで自己の成長を促し、また

他部署との積極的なグループワークを通じてより強固な組織づくりを目指す。さらに、成長支援を目的に12月までグループワークを継続し、各自の行動目標の進捗確認と相互アドバイスを行っていく。

一、OEM事業では原点回帰を掲げ、顧客とより密接な関係を築く営業活動、ホームページやメルマガなどの情報発信に取り組んでいる。またホームページからの新規問い合わせは、4～5月期に前年同期比で倍増した。問い合わせから実際に商談へと進展するケースも増加した。

一、福島工場で8月導入予定の自動包装設備は、予定通り稼働を開始できる見込み。これまで手作業だった工程を自動化することにより、省人化と省コスト化を実現できる。一部ラインの無人化を図るなど、将来的な人材確保への不安も解消していきたい。